認定 NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト
平成29年度活動事業報告

福島県福島市飯坂町字一本松 11-7

日にち	主な事業内容
平成 29 年 4 月 2 日	木村真三氏勉強会「放射線教育」（サンライフ福島　大研修室）
4 月 10 日	平成 29 年度　ホットスポットファインダー測定(お散歩コース・通学路）開始
4 月 23 日	ふくしまくらす交流会「子どものからだを考える － 自然治癒力、免疫を中心に」 （サンライフ福島　和室）
4 月 23 日	新パンフレット作成開始（～平成 30 年 1 月）
4 月 27 日	第五回「しんきんの絆」復興応援プロジェクト贈呈式ならびにオリエンテーション出席 （宮城県仙台市）
5 月 8 日	事業・会計監査
5 月 10 日	理事会
5 月 25 日	通常総会
5 月 27 日	小山良太氏勉強会「風評被害」（アオウゼ　大活動室）
6 月 3 日	山形県大江町　やまさぁーべ田植えキャンプ（～4 日）
6 月 9 日	第三回「しんきんの絆」復興応援プロジェクト完了報告会出席（宮城県仙台市）
6 月 11 日	福島で挑む～次への飛躍をつくる市民フォーラム出席（ラコパふくしま）
6 月 13 日	『ふくしま 30 年プロジェクトの「あれから」「今」そして「これから」』作成開始（～10 月）
6 月 16 日	山下祐介・市村高志氏勉強会「復興」（サンライフ福島　大研修室）
6 月 19 日	東日本大震災支援　土田英順　チェロコンサート開催（アオウゼ多目的ホール）
6 月 20 日	土田英順　チェロコンサート協力　主催　NPO法人　あぶくま地域づくり推進機構 （田村市都路公民館）
6 月 22 日	「子どもにとって安心・安全な組織・事業づくり」研修参加
6 月 23 日	洗濯物干しプロジェクト開始
6 月 23 日	ままカフェ「食と放射能に関するお話し会」参加　主催　ふくしま子ども支援センター （福島市保健センター）
6 月 25 日	中高生向け放射線ワークショップ（ふくしま 30 年プロジェクト内）
6 月 30 日	ふくしま未来基金授与式&オリエンテーション出席（ラコパふくしま）
7 月 1 日	山形県大江町　やまさぁーべ稲刈りキャンプ(～2 日）
7 月 6 日	測定室内ファントム校正（～11 日）
7 月 8 日	ふくしまくらす交流会発酵ワークショップ 「～智恵子さんに教わる　美味しい玄米甘酒～　発酵シリーズ第 4 弾～」（カフェギャラリー風と木）
7 月 9 日	「ヨウ素剤の自主配布相談会」参加　主催　DAYS 救援アクション(DAYS 赤坂見附貸会議室）
7 月 20 日	東和 WBC 第 11 回測定（～24 日）
7 月 21 日	認定 NPO 法人取得
7 月 22 日	福島の現状を知り、語り、考える会「原発事故後～今～これからを　共に生きる人たちへ」 （新宿三丁目ホール）

7 月 22 日	DAYSJAPAN 取材協力 ホットスポットファインダー測定（～23 日）
7 月 31 日	那須町保健センター ファントム校正（～8 月 2 日）
7 月 31 日	伊藤英氏 ピアニカライブ開催（みんなの家＠ふくしま）
8 月 8 日	子ども放射線ワークショップ（みんなの家＠ふくしま）
8 月 8 日	木村真三氏勉強会「甲状腺癌」（サンライフ福島 大研修室）
8 月 20 日	DAYS 救援アクション会議参加 「簡易モニタリングポスト設置プロジェクト、安定ヨウ素剤配布プロジェクト」
8 月 23 日	【富岡社会事業】第 4 回勉強会参加（いわき市役所 労働福祉会館）
8 月 26 日	ふくしまくらす交流会発酵ワークショップ Vol.05「漬物名人高橋トク子さん直伝の技をお教えします～夏野菜のお漬物で発酵パワー～」（サンライフ福島 第一講習室）
8 月 27 日	ママチャンネル祭 2017SUMMER FES 出店（CHANNEL SQUARE）
9 月 3 日	認定 NPO サミット参加 主催 認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ（郡山市）
9 月 24 日	ふくしまくらす交流会「第二回子どものからだを考える － 自然治癒力、免疫を中心に」 （サンライフ福島 和室）
9 月 26 日	フクシマコミュニティづくりプロジェクト参加（郡山市 ビッグパレット福島）
9 月 30 日	山形県大江町 やまさぁーべ稲刈りキャンプ（～10 月 1 日）
10 月 5 日	WCRP 助成金の授与（ふくしま 30 年プロジェクト内）
10 月 15 日	清水奈名子氏勉強会 「あったことをなかったことにはできない」 －消されゆく被害と子ども・被災者支援法－ （アオウゼ 視聴覚室）
10 月 23 日	「シン・ゴジラ×巨神兵東京に現わる 同時上映 現実 対 虚構 in フクシマ」 フォーラム福島と打ち合わせ開始（～平成 30 年 1 月）
11 月 15 日	臨時理事会
11 月 18 日	みんなのデータサイト総会及び報告会参加 （東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター ～19 日）
11 月 23 日	ふくしまくらす交流会 発酵ワークショップ Vol.06 漬物名人高橋トク子さん直伝【白菜キムチ】 （サンライフ福島 第一講習室）
11 月 27 日	第一回測定実践者間意見交換会参加 主催 NPO 法人シャローム災害支援センター（郡山市）
12 月 1 日	日本放射線安全管理学会 12 月シンポジウム参加（東京大学農学部弥生講堂一条ホール）
12 月 5 日	「しんきんの絆」復興応援プロジェクト第五回助成_中間報告会出席（宮城県仙台市）
12 月 8 日	タケダ・いのちとくらし再生プログラム：テーマ型研修「『参加』を生み出す力を身につける」参加 （岩手県 ～9 日）
12 月 10 日	福島の現状を知り、語り、考える会「未来へつなげるために 今できること」 （ハモニカ横丁ミタカ内モスクワ）
12 月 15 日	「日隅一雄・情報流通促進賞 2017」授賞式参加（日比谷コンベンションホール）
12 月 17 日	有機農業シンポジウム『畑からいつもの食事を考えよう』参加（JA 福島ビル 10 階大会議室）

日にち	主な事業内容
12 月 29 日	秋田県避難者の福島市視察ツアー参加（みんなの家セカンド）
平成 30 年 1 月 6 日	クラウドファンディング『「シン・ゴジラ」上映トークイベントの開催と記録を残したい！』開始 （～2 月 20 日）
1 月 20 日	ふくしまくらす交流会　発酵ワークショップ Vol.07【味噌作り】（サンライフ福島　第一講習室）
1 月 22 日	臨時理事会
1 月 28 日	「シン・ゴジラ×巨神兵東京に現わる　同時上映　現実　対　虚構 in フクシマ」（フォーラム福島）
1 月 31 日	放射線リテラシー研修「福島の今を知る～福島の食と放射能～」参加 （チェンバおおまち 3 階　多目的ホール）
2 月 1 日	現地会議 in 東京・大阪参加 主催　JCN（東京都、大阪府　～2 日）
2 月 11 日	おしどりマコ・ケン勉強会「東電会見を追った立場から見た福島第一原発の今」 （チェンバおおまち 3 階　多目的ホール）
2 月 24 日	ビオクラシ―展オープニングトーク参加（はじまりの美術館）
2 月 25 日	ふくしまくらす交流会「第三回子どものからだを考える － 自然治癒力、免疫を中心に」 （サンライフ福島　和室）
3 月 7 日	第二回測定実践者間意見交換会参加 主催　NPO 法人シャローム災害支援センター（福島市）
3 月 11 日	ビオクラシ―展特別企画「太陽を盗んだ男」上映&長谷川和彦トークイベント［ふくしネまとの共催］ （はじまりの美術館）
3 月 11 日	臨時理事会
3 月 12 日	事務所移転作業（～23 日）
3 月 18 日	みんなのデータサイト「原発事故から 7 年目に見えて来た　日本の汚染、世界からの声」参加 （東京都　国立オリンピック記念青少年総合センター）
3 月 18 日	ウクライナと福島の交流会「高齢者の終の住処を考える」参加（飯舘村交流センター）
3 月 20 日	平成 29 年度　ふるさと・きずな維持・再生支援事業成果報告交流会参加（杉妻会館）
3 月 20 日	チェルノブイリと福島をつなぐタベ　主催　ゼロ Fuku, 科研費（C)16KT0122 原発事故被災地域に生きる高齢者の尊厳と「終の住処」のあり方に関する研究　共催　NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト （二本松市コンサートホール）

活動報告

●食品・環境放射能測定

食品・環境放射能測定については、トータル測定数が 611 件となり、平成 28 年度と比較すると 141 件減となっています。【表 1】理由として、29 年度は測定事業よりも交流会事業などを優先したことと、『みんなのデータサイト』の「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト(以下、土壌プロジェクト)」が一段落したことが上げられます。また、他にも年明け 1 月から事務所移転作業が生じたことで、測定業務が制限されたことがあります。

測定検体の傾向としては、福島県からの補助金『ふるさと・きずな維持・再生支援事業』で行った「生活に密着した放射能測定」や、ADR を行なっている団体からの依頼である環境検体測定が全体の 60%を占めています。28 年度の環境検体の測定数と比較すると、189 件から 369 件と約 2 倍に増加しています。また、『みんなのデータサイト』の「土壌プロジェクト」の測定が終了したことで、全体に占める土壌測定の割合が 13.5%になりました。28 年度の土壌測定が 47%と全体の半分近くを占めていたのと比較すると、29 年度は 28 年度の 3 分の 1 弱に減少しています。【表 2】【グラフ 2】

ADR を行なう団体から環境検体の測定依頼があったことで、月ごとに一定の測定数を確保できましたが、土壌や食品の検体数が伸び悩みました。土壌については、「土壌プロジェクト」の測定が実質的に終了した結果ですが、食品は「流通品測定プロジェクト」の自主測定が中心であり、外部依頼の減少傾向は変わらずという状態です。現在も、放射能問題に関心がある母親たちからの、流通品についての測定データの需要があり、弊法人としてもデータを蓄積していく必要があります。しかし、今後もそのための財源をどのように確保していくかが、課題となります。【表 3】【グラフ 3】また 29 年度は、前述の ADR を行なう団体などからの測定依頼があったことで、一定の測定数と収入を得ることができました。しかし、ADR 案件が減少してきたためかもしれませんが、下半期後半から依頼数が減少してきました。測定体制を維持するための予算確保について、課題解決の糸口は依然見つかっていません。

「生活に密着した放射能測定」は、『平成 29 年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業』の補助金を活用させていただきました。

【表 1】年度別測定件数

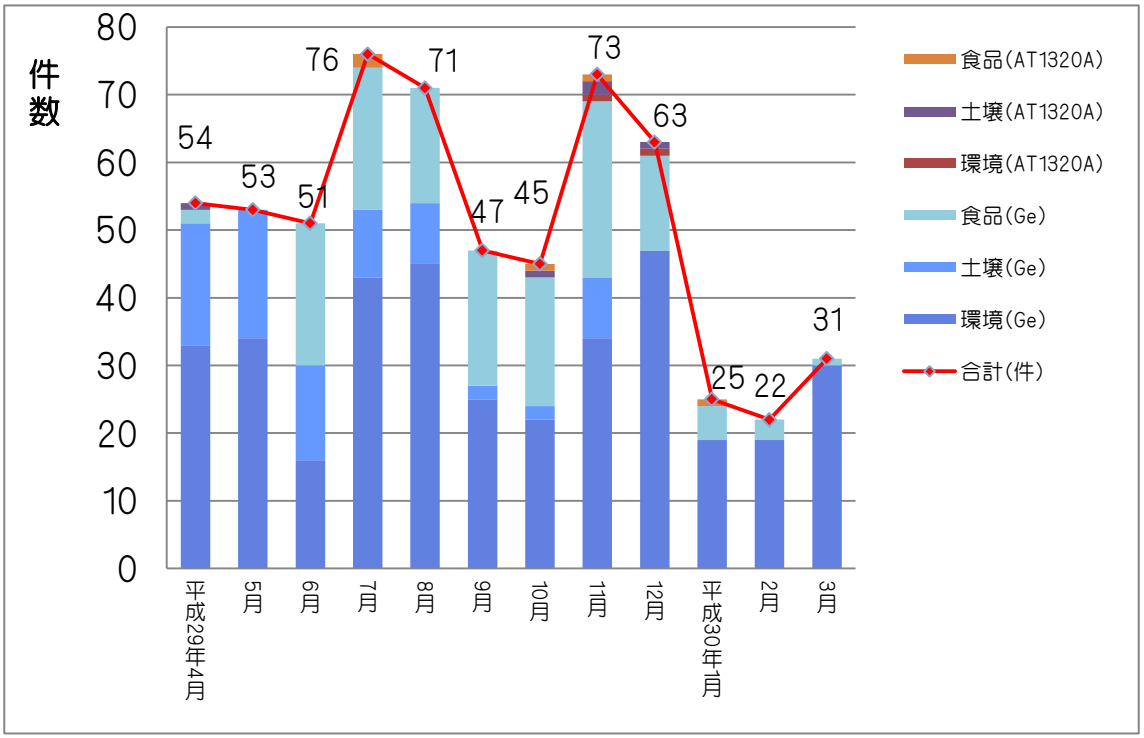
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度
794	591	661	752	611

【表 2】平成 29 年度食品・環境試料測定件数

	環境 (Ge)	土壌 (Ge)	食品 (Ge)	環境 (AT1320A)	土壌 (AT1320A)	食品 (AT1320A)	合計(件)
平成 29 年 4 月	33	18	2	0	1	0	54
5 月	34	19	0	0	0	0	53
6 月	16	14	21	0	0	0	51
7 月	43	10	21	0	0	2	76
8 月	45	9	17	0	0	0	71
9 月	25	2	20	0	0	0	47
10 月	22	2	19	0	1	1	45
11 月	34	9	26	1	2	1	73
12 月	47	0	14	1	1	0	63
平成 30 年 1 月	19	0	5	0	0	1	25
2 月	19	0	3	0	0	0	22
3 月	30	0	1	0	0	0	31
平成 29 年度 計	367	83	149	2	5	5	611
参考 平成 28 年度 計	183	356	199	6	2	6	752

Ge＝ゲルマニウム半導体検出器、AT1320A ＝ 簡易食品測定器(NaI シンチレーター)

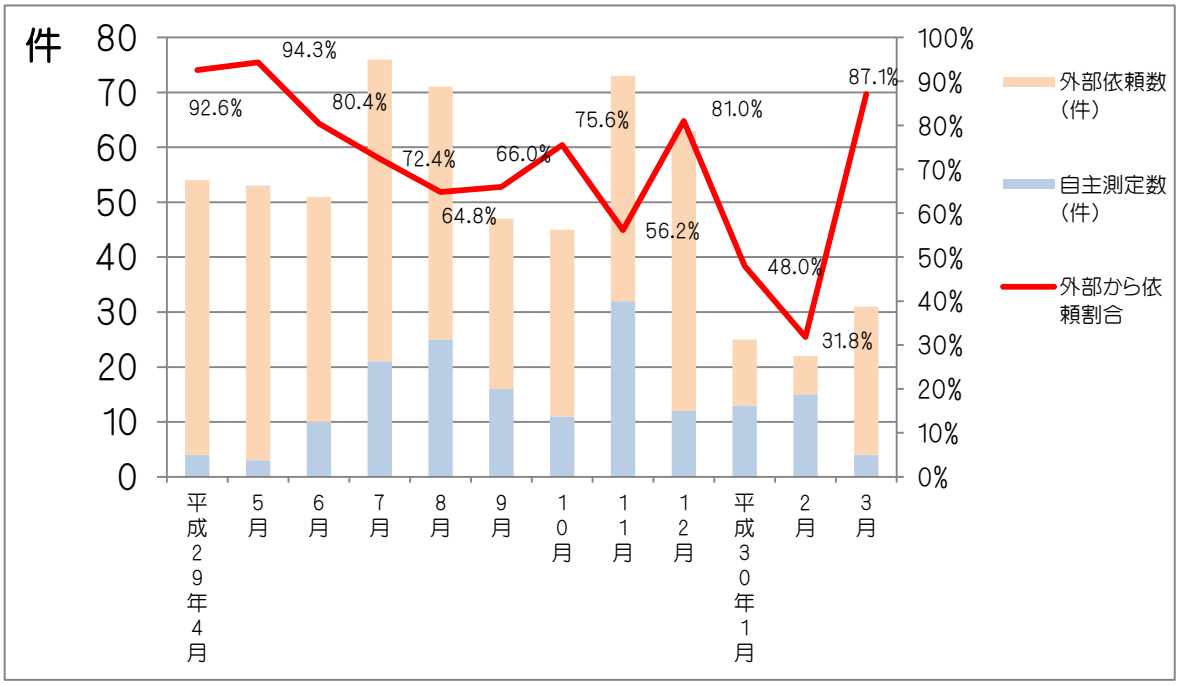
【グラフ 2】



【表 3】外部依頼件数

	測定数（件）	外部依頼数（件）	外部から依頼測定割合	備考(主な依頼者)
平成 29 年 4 月	54	50	92.6%	「ADR 団体」
5 月	53	50	94.3%	「ADR 団体」
6 月	51	41	80.4%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
7 月	76	55	72.4%	「ADR 団体」
8 月	71	46	64.8%	「ADR 団体」
9 月	47	31	66.0%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
10 月	45	34	75.6%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
11 月	73	41	56.2%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
12 月	63	51	81.0%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
平成 30 年 1 月	25	12	48.0%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
2 月	22	7	31.8%	「ADR 団体」「賛助会員(複数)」
3 月	31	27	87.1%	「ADR 団体」
合計	611	445	72.8%	

【グラフ 3】



●ホールボディーカウンター（WBC）測定事業

ホールボディカウンター測定については、平成 29 年度も農業者団体の測定を中心に行いました。

1.　平成 29 年度の WBC 測定実績

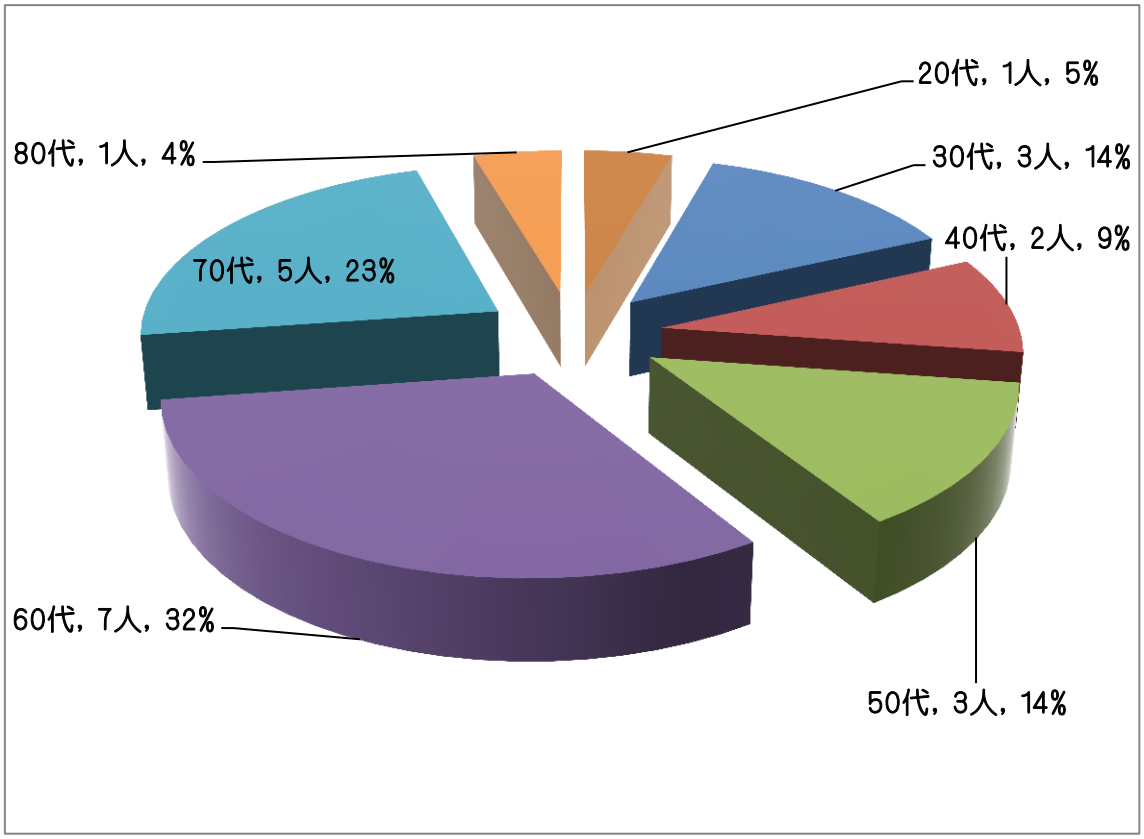
平成 29 年度の測定総数は、のべ 22 名となっています。その大部分が定期的に測定している農業者の方々でした。年齢的には 50 代以上の方が 7 割を占めています。

また、29 年度は事務所移転作業に伴い、定期的に 1 月に行なっていた農業者の測定が行なえなかったため、測定人数が例年の半分以下となりました。【表 4】【グラフ 4】

【表 4】

年月	WBC 事業内容
平成 29 年 7 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 11 回 WBC 測定
平成 29 年 9 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 11 回 WBC 結果報告

【グラフ 4】年代別測定割合　平成 29 年度



セシウム 137 が検出された方の人数は、22 名中のうち 4 名（18%）で、最高値は 2.82 ベクレル/kg でした。なお、セシウム 134、137 がともに検出された方はいませんでした。年齢別では、60 代・70 代の方の検出率が高い傾向にあります。

2. WBC 校正およびファントム・線源貸出事業

WBC のバックグランド校正および貸出等を下記のとおり 2 回行いました。【表 5】

ファントム・線源については、平成 29 年度に東京大学から動産贈与を受けました。

【表 5】

年月	依頼先	作業内容
平成 29 年 7 月	ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG 校正
平成 29 年 8 月	那須町保健センター	WBC BG 校正

●ふくしまくらす交流会

ふくしまくらす交流会は、『放射能に不安を持つ子育て世代と一緒に食と健康の知識向上』を主題にして、研修会と発酵ワークショップの二本立てで行ないました。【表 6】 医師の研修会は、三回の開催で延べ 36 名の参加となり、事業計画時点での参加予定人数を各回 15 名に想定していたので、総数でいうと 80%の参加率になりました。医師の研修会の内容面については、山田真医師が三回の講演を通して、子どもの体調や免疫について語っていくという構成にしました。対象として想定していた子育て世代の参加が全体の半数程度で、その他に孫を持つ中高年世代や山田真医師に関心がある方の参加がありました。

会場としたのは全て和室の部屋だったので、会全体はリラックスした雰囲気で進行することができました。ただし、アンケートの感想を見ると、ある程度知識がある方からは内容に食い足りない印象を持ったということでした。反面、幼児を子育て中の保護者からは満足度が高い内容だったという感想をいただきました。

発酵ワークショップは四回の開催で延べ 71 名の参加がありました。事業計画時点では各回 20 名の想定でしたので、延べ人数からの参加率は 89%になりました。使用した会場の規模や材料を用意するなどの要素を鑑みても、過不足のない参加率であったと思われます。年代ごとの参加率については親子連れもあり、小学生から 80 代まで幅広い世代の参加がありました。参加後の感想についても概ね好評であり、リピーターとして今後も参加したいという感想もありました。

平成 28 年度の交流会からの課題として、「被災者の長期に及ぶ精神的な負担の軽減と、放射能に気をつけながらの健康増進を図る方法の提示」という趣旨で、研修会と発酵ワークショップを連動していく想定でいました。しかし、29 年度も双方の会で参加者が重なることは少なく、発酵ワークショップに参加してもらった上で、そこでできた関係作りから医師の研修会への参加を促すことができませんでした。今後、交流会全体をどのように連動して運営していくかのデザインを、あらためて考えなければならないと思います。

ふくしまくらす交流会には「うつくしま基金」「一食(いちじき)福島復興・被災者支援事業」の助成金を活用させていただきました。

【表 6】ふくしまくらす交流会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 29 年 4 月 23 日	サンライフ福島 和室	「子どものからだを考える － 自然治癒力、免疫を中心に」	11 名	講師:山田真医師
2	7 月 8 日	カフェギャラリー風と木	「～智恵子さんに教わる 美味しい玄米甘酒～ 発酵シリーズ第 4 弾～」	15 名	講師:丹治智恵子さん
3	8 月 26 日	サンライフ福島 第 1 講習室	発酵ワークショップ Vol.05 「漬物名人高橋トク子さん直伝の技をお教えします ～夏野菜のお漬物で発酵パワー～」	20 名	講師:佐原真紀 長谷川浩(講義部分)
4	9 月 24 日	サンライフ福島 和室	「第二回 子どものからだを考える － 自然治癒力、免疫を中心に」	5 名	講師:山田真医師
5	11 月 23 日	サンライフ福島 第 1 講習室	発酵ワークショップ Vol.06 漬物名人高橋トク子さん直伝【白菜キムチ】	22 名	講師:佐原真紀 長谷川浩(講義部分)
6	平成 30 年 1 月 20 日	サンライフ福島 第 1 講習室	発酵ワークショップ Vol.07【味噌作り】	14 名	講師:長谷川浩
7	2 月 25 日	サンライフ福島 和室	「第三回 子どものからだを考える － 自然治癒力、免疫を中心に」	10 名	講師:山田真医師

●勉強会

平成 28 年度の交流会企画の反省から、29 年度はテーマを明確化し、勉強会として独立させました。学びの場としての交流会を発展させ、今後、住民自らが生活を復興させていくための知識と心の持ち様を学ぶことを目的に計画しました。

全体として事業計画通りに順調に進行し、参加人数についても、当初設定したよりも多くの方々が参加しました。【表 7】また、アンケート結果からも、こちらの企画意図と、参加者の要望が的確にはまったようで、毎回満足度が高いといった結果が得られました。震災・原発事故から丸 7 年を迎えて、被災者が抱える問題が細分化した時期に、各々の問題についての専門家を招き、解説や今後の展望について濃密な時間を共有できたことが大きいのではと感じました。また、講師として来て下さった方々の人間性に感銘を受ける参加者も多くいました。また、遠方からの参加もあり、被災地支援者にも関心を持ってもらえるテーマが用意できたためと思われます。

スタッフとしても、講師の方々の人間性に触れたことで、活動目的の再確認や今後の活動意欲の一層の高まりへと昇華することができました。例としては、6年半が経過して、緊急から平常(ただし、非日常のなかの平常)の生活になったと言っても、迷いや確信が持てないことがままあります。それに対する講師の方々の的確なアドバイスによって、前向きに考えられるようになったというケースがありました。

現在、福島県を取り巻く問題は、初期に注目された放射能による健康問題だけに留まらず、複合的になり、より複雑になっています。しかし、それを紐解いて教示してくれる専門家がいることで、市民自身がそれを解決していくきっかけや意欲を持つことができるかもしれないという手ごたえを感じました。

勉強会には「『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

【表 7】勉強会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 29 年 4 月 2 日	サンライフ福島 大研修室	木村真三氏勉強会「放射線教育」	23 名	講師:木村真三さん
2	5 月 27 日	アオウゼ 大活動室	小山良太氏勉強会「風評被害」	20 名	講師:小山良太さん
3	6 月 16 日	サンライフ福島 大研修室	山下祐介・市村高志氏勉強会「復興」	25 名	講師:山下祐介さん 市村高志さん
4	8 月 8 日	サンライフ福島 大研修室	木村真三氏勉強会「甲状腺癌」	48 名	講師:木村真三さん
5	10 月 15 日	アオウゼ 視聴覚室	清水奈名子氏勉強会「あったことをなかったことにはできない ―消されゆく被害と子ども・被災者支援法―」	26 名	講師:清水奈名子さん
6	平成 30 年 2 月 11 日	チェンバおおまち 多目的ホール	おしどりマコ・ケン勉強会「東電会見を追った立場から見た第一原発の今」	42 名	講師:おしどりマコ・ケンさん

●福島県内の状況を伝える、研修・交流会

福島県に関心を持つ首都圏在住者、また、首都圏への自主避難者を対象に、福島県を取り巻く最新の状況や、放射能の測定データを伝える交流会を 2 回行いました。「福島の現状を知り、語り、考える会」という名称で、福島県内での生活を継続してきたなかで得た知見や、現地の生の声を生かすかたちの発表を行ないました。また、復興状況を説明したうえで、原発事故後の福島県について、参加者との意見交換を行なうことは、首都圏在住者や自主避難者との相互理解の場として有益でした。

ただし、一回目は、ネットでの告知開始が 7 月 7 日(土)からで、この時点ですでに開催日の 2 週間前でした。この期間では、facebook などの SNS を使ったとしても、交流会を周知するについて十分な時間が取れたとは言い難く、結果として、参加人数が 11 名に留まってしまいました。12 月 10 日に開催した二回目の参加者は 34 名と増加し、うち 5 名は避難者でした。二回開催した交流会の参加延べ人数は 45 名でしたが、当初、各回の交流会では 40～50 名の参加者を想定していたので、それを目安にすると、一回目については 25 パーセントの達成度、二回目は 70 パーセント弱の達成度となりました。【表 8】

第一部は講演、第二部はデスカッションとして構成しました。第二部の参加者とのディスカッションタイムでは活発な発言が相次ぎ、どちらの会ともに、参加者の反応は非常によかったと言えます。あらためて、首都圏(今回は東京都内)在住の人々に、現地の生の声

に触れたいというニーズがあることが確認できました。

12 月 10 日の会場風景

【表 8】福島の現状を知り、語り、考える会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 29 年 7 月 22 日	新宿三丁目ホール	「原発事故後～今～ これからを　共に生きる人たちへ	11 名	講師：島明美さん 高橋千春さん
2	12 月 10 日	ハモニカ横丁ミタカ内 モスクワ	「未来へつなげるために　今できること」	34 名	講師：島明美さん 高橋千春さん

「福島県内の状況を伝える、研修・交流会」は、『平成 29 年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業』の補助金を活用させていただきました。

●子ども向け放射能ワークショップ

二本松市放射線専門家チーム　アドバイザー　木村真三さんの勉強会テーマ「放射線教育」内で行なわれた小学生向けの模擬授業が好評でしたので、実際に福島市の子どもたちに「放射線授業」として受けてもらいたいと考え、夏休みに行なう「こども放射線ワークショップ」の講師を依頼しました。

しかし、開催日の昼に台風 5 号の影響があるという予報があったことで、参加人数に影響があり、結果として子どもが 5 人、大人が 13 人となりました。子どもの参加についても、小学 3 年生が一人で、他の 4 人は就学前の子どもたちでしたので、実質一人と言えるものでした。また、子どもの参加よりも大人の参加が多かったのは、このワークショップ本来の主旨から言え

ば残念と言えるものでした。28 年度事業報告書でも述べましたが、学校という枠組みから離れた形で放射線授業を開催した場合、子どもや保護者の参加を募る難しさをあらためて感じました。

木村さんによると、事故から丸 7 年が経過する中で、震災時に乳児だった子どもたちが入学してきたことで、震災の経験を前提に編集された二本松市の小学生向け放射線学習副読本では対応できなくなったとのことです。それを踏まえて、現在は木村さんが新たにオリジナルの教材を作成して対応していることが説明されました。今回参加したなかで、唯一の小学三年生の子どもが、ちょうど対象となる年代でしたので、その子に問いかける流れで進行していきました。教材の内容は、子どもだけでなく大人にとっても分かりやすく作られており、結果として、保護者のお母さんたちにとっても、あらためて放射能について学ぶ場になりました。

それまで身近でなかった放射性物質や放射線のことは、子どもと同じように大人にとっても学びの場が必要なものです。今年度は参加が少ないながらも、教室ではできない、親子で一緒に学ぶ放射線授業ができたのではないかと感じました。先述したなかでは難しさのみを書きましたが、今後、この特色を生かして、参加者を増やしていきたいと思います。

8 月 8 日 こども放射線ワークショップ

●ホットスポットファインダー測定（空間線量マップ化）事業報告

平成 29 年度は、ホットスポットファインダー測定を 51 件行ないました。【表 9】【図 10】

測定依頼の傾向としては、自主避難者に対する住宅の無償提供が平成 29 年 3 月に打ち切りになった影響で、自主避難者が帰還後の住まい周辺の空間放射線量測定を依頼してくることが多くありました。それ以外にも再測定の依頼が 13 件あり、『NPO 法人りょうぜん里山がっこう もんもの家』からの紹介で来る測定依頼も一定数ありました。

個別の例では、伊達市霊山町の住宅を測定したときに、3μSv/h を超える地点が見つかり、その後、住民の方から伊達市にお願いをして除染をしてもらったそうです。一方で、新築の住宅の測定では、盛土の影響で空間線量がとても低くなっていました。また、29 年度は前回の測定から 1～2 年が経過したことで、再測定の依頼が全体の 25%になりました。測定結果としては、アスファルトなどの水で洗い流される場所は線量が低くなっていますが、泥の溜まる箇所は線量に変化がないか、やや高くなっていました。

測定依頼をしてくる方々の傾向としては母親が多く、測定後の感想については、「思っていたよりも線量が低いことが分かって安心した」「線量が高い場所が分かったので近づかないように注意するようになった」「継続して測定してください」などがありました。また、家族や友人などと測定結果を共有する方がいる一方で、誰にも話せないという方もいました。

母親グループの測定体験を、井上きみどりさんの漫画でわかりやすく紹介するパンフレット、「ママたちのホットスポットファインダー体験記」を 2000 部発行しました。【図 11】

他、特記することとして、5 月 31 日にタブレットを落として破損させてしまい、動産保険を使って修理しました。

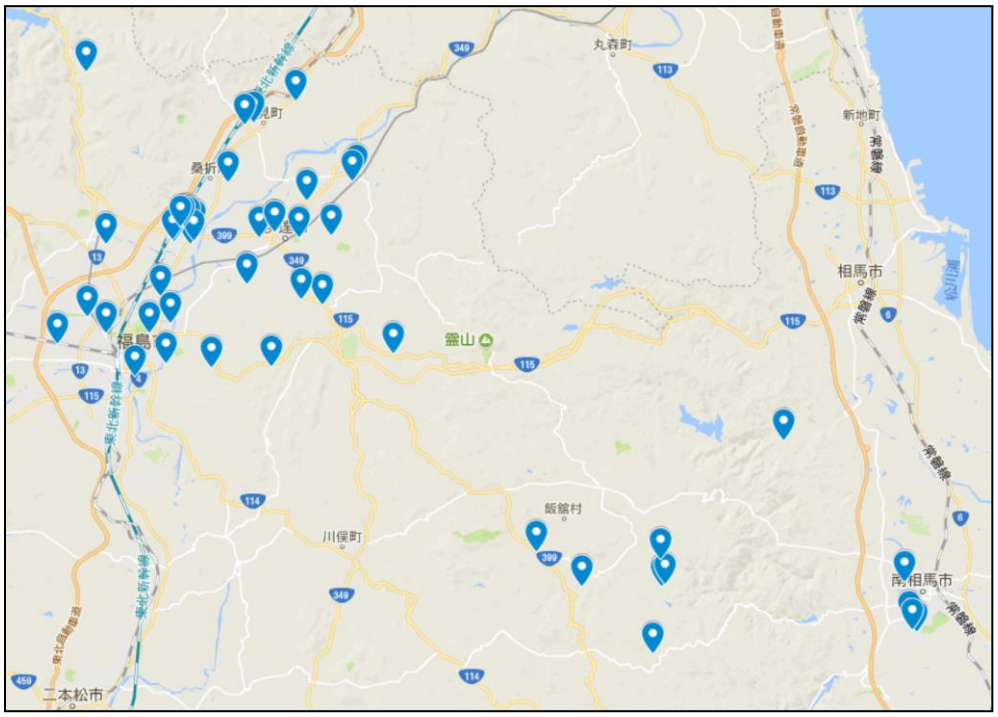
ホットスポットファインダー測定には「ふくしま未来基金 まちづくり草の根助成」の助成金を活用させていただきました。

「ママたちのホットスポットファインダー体験記」の作成には「一食(いちじき)福島復興・被災者支援事業」の助成金を活用させていただきました。

【表 9】ホットスポットファインダー依頼先分類

分類	測定件数
避難者	38 件
保護者・市民	4 件
支援団体	7 件
学校	1 件
自主測定	1 件
合計	51 件

【図 10】ホットスポットファインダー測定場所



【図 11】「ママたちのホットスポットファインダー体験記」

● **みんなのデータサイト（市民放射能測定データサイト）**

http://www.minnanods.net/

参加測定室　全国 34 の放射能測定室

食品データ数　16,127 件（弊法人登録データ数 3,402 件）平成 30 年 3 月 31 日現在

土壌データ数　3,405 件（弊法人登録データ数 355 件）平成 30 年 3 月 31 日現在

高濃度土壌データ数　107 件（弊法人登録データ数 0 件）平成 30 年 3 月 31 日現在

弊法人は、市民による放射能測定のデータの共有や連携を目指して立ち上げた『みんなのデータサイト」に、幹事団体の一つとして参加しています。

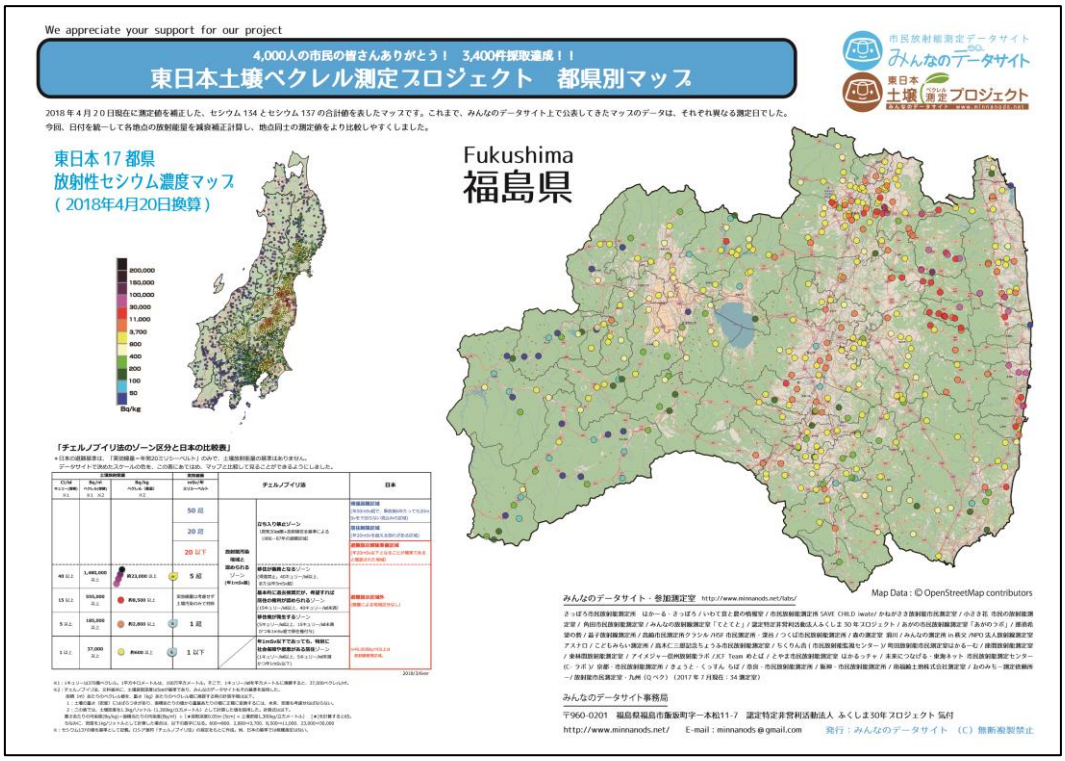
平成 29 年度、『みんなのデータサイト』は「土壌プロジェクト」において、市民からの土壌検体を受け付けての無料測定の終了に伴い、空白域を事務局及び測定室が採取することで、マップの完成度を上げる活動をメインに行ないました。

また、土壌プロジェクトの集大成として、チェルノブイリにおいて土壌マップをまとめた通称アトラス版と呼ばれる書籍を、日本で同様のレベルのものを作成したいと考えて企画を進めています。土壌測定の数値情報以外に、それに関わる食品のデータを載せて解説するなど、読み物として堪えられるよう検討して作業を進めています。現段階では、書籍版までの繋ぎというかたちで、福島県や栃木県など、A3 サイズで各都県のマップを単品で作成して頒布しています。【図 12】

そして、「日隅情報流通促進基金」から、土壌プロジェクトの活動が「日隅一雄・情報流通促進賞」2017 大賞として選ばれました。「日隅一雄・情報流通促進賞」とは、「表現の自由や情報公開などに力を入れ、知る権利や情報通信分野で活躍するメディアやジャーナリスト、市民を顕彰している」賞になります。平成 29 年 12 月 15 日に表彰式があり、「みんなのデータサイト」共同代表として阿部浩美が出席しました。【図 13】

他に、各測定室に埋もれている、未だデータベースに登録されていない測定データを、相互に協力して登録する事業も進めました。この事業においては、1 年間で 2200 件の食品データを追加登録することができました。

【図 12】福島県マップ



【図 13】12 月 15 日表彰式

●子どもの自然体験と交流事業

平成 29 年度も 28 年度から継続して、山形県にある「大江町山里交流館やまさぁーべ」の協力のもと、田植え・草取り・稲刈りを中心とした農業・自然体験を行ないました。【表 14】新たに草取りも体験事業の中で行ったことで、大江町の農家の方から、草取りのおかげで収穫がよかったと言ってもらうことができました。

震災後、子どもたちが土に触れる機会が少なくなりましたが、米作りなどの農業体験を子どもの時代に体験することは、食の大切さ、米作りの文化や苦労を知ることなど、人が大人となる上での大切なことがいくつもあります。山形県西村山郡大江町で触れた田んぼの土の感覚や、ドロドロにぬかるむ中、頑張って稲刈りをしたこと、田んぼ周辺や裏山を散策して、植物や昆虫などの観察も行なったことなど、貴重な体験ができたと思われます。

収穫したお米（ハナノマイ）を販売して得た収入で、次年度の子どもの自然体験と交流事業の活動資金に充てる計画です。

【表 14】主催した子どもの自然体験・交流事業

日にち	場所	参加人数（ｽﾀｯﾌ含む）	主な活動内容
6 月 3 日～4 日	山形県大江町	27 名	田植えキャンプ
7 月 1 日～2 日	山形県大江町	17 名	草とりキャンプ
9 月 30 日～10 月 1 日	山形県大江町	28 名	稲刈りキャンプ

●冊子・通信発行

◆「ふくしま 30 年プロジェクト通信」 発行 8 回（各 200 部前後）

◆「ふくしま 30 年リポート」 発行 1 回（1,000 部）
・ふくしま 30 年リポート Vol.06 「生活に密着した放射能測定 2012 年～2017 年」

◆シン・ゴジラ対談＠フォーラム　樋口真嗣×丹治匠（1,000 部）

◆ふくしま 30 年プロジェクトの「あれから」「今」そして「これから」（4000 部）

◆新パンフレット(国内版・海外版)（国内版 1,000 部、海外版 500 部）

事業計画では、通年で冊子を 5 冊発行としていたわけですが、3 冊の発行が完了しない結果になりました。予定していた発行までは行きませんでしたが、文字起こしなど原稿を順次進めていました。また、事業計画の時点でも映像上映&トークイベントに時間が取られると予想していましたので、上半期に勉強会を固めました。しかし、実際に準備を始めると、そのボリュームに予想以上に時間を取られてしまい、また、10 月下旬に急遽、平成 30 年 3 月までに事務所の移転をしなければならないことが決まりました。トークイベントと事務所移転を同時並行で進めなければならない中で、最終的に年度末までの発行が間に合いませんでした。今回は、急な事務所移転があったことで計画に支障をきたしましたが、スタッフの人材不足も含め、全体のマネージメントに詰めの甘さがありました。

漫画家の井上きみどりさん(以下、井上さんとする)と共同して、原発事故からの福島県をとりまく状況をまとめた漫画冊子「ふくしま 30 年プロジェクトの『あれから』『今』そして『これから』」を作成しました。6 月より漫画執筆を依頼した井上さんと、佐原、阿部で打ち合わせを開始し、漫画のテーマの明確化に注力しました。井上さんの取材の日程を 7 月に調整した上で、佐原が複数の保護者に声掛けをして取材の受諾をもらい、その取材を元に井上氏が漫画執筆に取り掛かりました。10 月 19 日に 2000 部が納品され、交流会以外に、全国の支援団体などへの頒布を行ないました。最初の 2000 部の頒布が完了したので、追加で 2000 部の増刷を行ないました。

読後の感想として、「非常に分かりやすい」との意見を多くいただきました。原発事故の経緯については複雑な事情が絡まっているため、その説明には難解な印象を持たれがちですが、「分かりやすい」「読みやすい」という感想を多くもらい、あらためて漫画というメディアの特性を再確認しました。

また、行政が発信する以外の草の根の活動を国内外に発信することで、弊法人に対する

共感を呼びこみ、広範な支援を得ることを目標として、力点をおいている活動などを見やすくデザインし、興味を持ってもらえる新しいパンフレットを作成しました。また、同時に海外発信の元となる英語版も翻訳をして同時制作しています。

新パンフレット日本語版については、関係者や支援者への送付、東京で開催した交流会を初めとした各イベントで配布を行ない、初版として印刷した分の在庫は全て捌けました。英語版パンフレットについては、2 月中旬にイギリスで LUSH 主催のイベントがあり配布の機会を得ました。

ふくしま 30 年プロジェクトの「あれから」「今」そして「これから」

冊子・通信作成及び発送には「『しんきんの絆』復興応援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

「ふくしま 30 年プロジェクトの『あれから』『今』そして『これから』」の作成及び発送には、『平成 29 年度ふるさと・きずな維持・再生支援事業』の補助金を活用させていただきました。

パンフレット作成及び発送には「一食(いちじき)福島復興・被災者支援事業」の助成金を活用させていただきました。

●コンサート

平成 29 年

6 月 19 日(月) 東日本大震災支援 土田英順 チェロコンサート

(アクティブシニアセンター・アオウゼ 大活動室)

7 月 31 日(月) 伊藤英 超絶ピアニカライブ (みんなの家＠ふくしま)

平成 29 年度も 28 年度から引き続き、チェロコンサートやピアニカライブを行ないました。各回の入場者数は、チェロコンサート 46 名、ピアニカライブ 33 名となりました。参加人数については、告知力不足で想定していたよりも少ない結果となりましたが、チェロコンサート、ピアニカライブともに、アンケート結果から、多くの方から満足との感想が得られました。

●映像上映・対話トークイベント

平成 30 年 1 月 28 日(日)

シン・ゴジラ×巨神兵東京に現わる　同時上映 「現実　対　虚構 in フクシマ」

ゲスト:樋口真嗣さん(映画監督)、丹治匠さん(イメージボード・美術)

会場:フォーラム福島

参加者:170 名

福島での生活の復興をめぐり、対話し思考する事業:「東日本大震災をモチーフとした映像を主題にして、映像が持つ力によって見えてくる事柄、現実の問題点や人間賛歌といったものを、福島に住む市民が、現地に住む以外の「他者」と対話をすることによって、6 年間の出来事を振り返り、今後、この地で生活していくための糧としていく」として、初めての映像上映&トークイベント企画を進めました。

この企画を進めるなかで、福島の若者(女性)に地元の代表として、トークタイムにゲストの監督と一緒に登壇してもらうことにしました。彼女たちは、震災・原発事故を体験したときに中高生だった子どもたちなのですが、7 年が経過し成人したところで、あらためて現在の福島を発信したいと活動していました。彼女たちが活動するなかで弊法人との繋がりができたのですが、わたしたちとしても、現在の福島が抱える問題について知ってもらいたいということで、勉強会へと参加してもらいました。29 年度事業として始めた勉強会での新たな繋がりが、ここでは同じく、初めて行なう事業へ波及するかたちで結実していきました。

上映作品には「シン・ゴジラ」を選択し、監督の樋口真嗣さんと福島市出身の丹治匠さんをゲストに迎えることで話題性としては申し分ないものになりました。また、告知についても福島信用金庫から名義後援をいただき、担当の武藤進様からは、自治体や地元マスコミの名義後援の取得を積極的に勧められました。結果として、福島市、福島市教育委員会、福島民報社、福島民友新聞社と、弊法人としては最も告知に力の入った体制になりました。他にも武藤様からは、映画を上映するための資金不足から、福島民報社が事務局を務めるクラウドファンディング「フレフレふくしま応援団」を紹介していただきました。

企画当初の時点よりも、人、企業を巻き込みながら進めていくことができ、イベントの内容だけでなく、運営過程のなかで得られた経験が大きかったと言えます。今までの弊法人の活動から言えば初めての分野でありますが、テーマとした部分に共感いただけたことで、多くの協力を得ることができました。参加者からも、おおむね高い評価をいただけたことと、今まで弊法人の存在を認識していなかった人々へも訴えることができたことも含め、弊法人の新しい活動として成功したと思います。

反省点としては、トークイベントのタイトルを、「現実　対　虚構 in フクシマ」としたことで、『フクシマ」と片仮名書きにしたことや、『ゴジラ』を原発事故に絡めて語ることに抵抗があるという感想がありました。チラシなどの告知で、イベント本来の主題を打ち出さなかったために、エンターティメントのトークショーを期待して参加された方々には違和感があったようです。

しかし、エンターティメントのメジャータイトルだからこそ、多くの人々の様々な捉え方があり、娯楽を求めて参加された方から厳しい意見があるのは予想通りでもありました。アンケートに返答していただいた方々からこういった意見は少数であったのですが、これまで弊法人が対象としていた方々以外をも取り込むつもりで行なった初めてのイベントですので、慎重に捉え、今回の経験を次回以降のイベントに反映させていきたいと思います。

トークイベント　樋口真嗣監督・丹治匠さん

映像上映・対話トークイベント事業には「WCRP フクシマ　コミュニティづくり支援プロジェクト」の助成金を活用させていただきました。

●講演等

平成 29 年

8 月 23 日(水) 【富岡社会事業】第 4 回勉強会（佐原）

12 月 1 日(金) 日本放射線安全管理学会 12 月シンポジウム（阿部）

●認定NPO法人取得

ふくしま 30 年プロジェクトは、平成 29 年 7 月 21 日付けで、福島県より認定 NPO 法人として認定を受けました。認定 NPO 法人制度(認定特定非営利活動法人制度)は、NPO 法人への寄附を促すことにより、NPO 法人の活動を支援するために税制上の優遇措置として設けられた制度です。

わたしたちとしても、今回の認定 NPO 法人申請については、認定が下りるまで幸いにも順調にことが運んだと感じております。認定 NPO 法人となったことで、今後とも、適切な情報公開と適正な法人運営を心がけていきたいと考えています。

認定 NPO 法人取得にあたっての事業費として「認定 NPO 法人取得資金」の助成金を活用させていただきました。

●事務所移転

CHANNEL SQUARE の営業的な問題で、平成 30 年 3 月末日で福島市南矢野目の事務所から移転することになりました。この機会に、長期にわたる活動の維持・継続をするため、経費負担の少ない場所への事務所移転を目指し、30 年 3 月 12 日(月)～14 日(水)にかけて CHANNEL SQUARE を退去し、福島市飯坂町に事務所を移転しました。新事務所の改装工事が終わっていなかった為、実際に営業を再開したのは電話とネットが開通した 3 月 23 日(金)になりました。

この移転にあたっては、DAYS 被災児童支援募金、山田真医師、福島の健やかを願う会からの支援を受けることで実行することができました。

福島市飯坂町の新事務所 外観

●書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上 72,391 円、物品販売売上 168,580 円

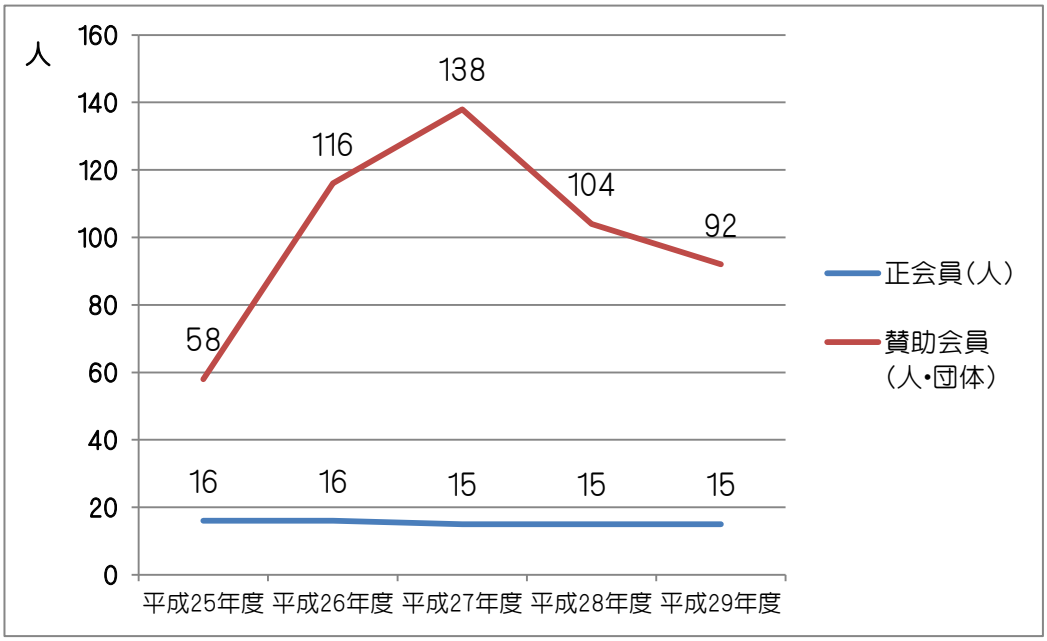
測定器レンタル利用者数 のべ 1 人

●会員数

平成 29 年度末の時点で正会員は 15 名と増減はありませんでしたが、賛助会員については 92 名となり、104 名から 12 名の減少となっています。【表 15】【図 15】 CHANNEL SQUARE に事務所を移転して以降、賛助会員の増加を目指してきましたが、会員となった方が引き続き応援を継続していただくのが難しいという状態です。

28 年度事業報告と重複しますが、弊法人を応援したいということで賛助会員となる方に対して、それ以後も引き続き応援したいと思える魅力をどうやって表現していくか。検討しつづけなければなりません。

【表 15】会員数推移

年度	正会員（人）	賛助会員（人・団体）
平成 25 年度	16	58
平成 26 年度	16	116
平成 27 年度	15	138
平成 28 年度	15	104
平成 29 年度	15	92

【図 15】